

文教福祉常任委員会

(令和6年5月16日)

文教福祉常任委員会

午前10時59分 開会

○福森真司委員長 ただいまから、文教福祉常任委員会を開会します。

本日の会議につきましては、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。
それでは、2、協議事項でございます。

(1)、安心して子育てできる環境づくりに向けた政策提言についてのうち、ア、所管事務調査の振り返りについて議題とさせていただければと思います。

本当に、昨日までの3日間でございますが、所管事務調査を実施させていただきまして、皆様の御協力によりまして実りのある内容となりましたこと、お礼申し上げます。
ありがとうございました。

そこで、所管事務調査で得た知見につきましては、皆様に作成いただく所感を集約させていただきまして、正・副委員長でとりまとめさせていただきたいと思います。

つきましては、その前に、現時点で委員の皆様から、簡単に結構でございますので、この3日間を振り返りまして簡単にお伺いできたらというふうに思いますので、御意見をいただければと思います。

順番でございますけども、石川委員からお願いします。

石川潤委員。

○石川潤委員 私は、静岡県島田市と兵庫県加古川市の子育て施設は、駅のすぐそばにあると。よく考えたら秦野市にはないんですね。外で遊ばせる施設はあるんですけども、ペコちゃん公園は大分離れていて、交通の便がバスに乗って行かなきゃいけないのかなという交通不便さを感じるところでありまして、島田市は駅の目の前にあって、悪天候時に、そういう施設があると。それが驚きの一つでありました。

利用人数も、休日なんかはかなり溢れてしまうというようなことも分かっていますので、まずは、秦野市もできたらいいんですけども、秦野市の場合は駅の近くですと、ちょっと今のところ場所の問題と、車で来られたときの駐車場が、例えば島田市の場合は、お隣に提携の駐車場もありましたが、秦野市の場合は、平面のタイムズみたいなのがちょこちょこしかないのが欠点で、そういうところの検討をしていただくなり、あとは駅前のポレスターというところは、保育園は入っているんですけども、そういうところが空いたときの活用法に何か生かせないかなと思います。

○福森真司委員長 順番で、中村委員をお願いします。

中村知也委員。

○中村知也委員 私は、最初に見させていただいた義務教育学校で、義務教育学校という言葉はいろいろ資料だとか見ていて、何かいまいちイメージがぱっとしづらかったんですけど、実際に現地に行って、小さな子供たちから、制服を着たお兄ちゃん、お姉

ちゃんまで元気よく過ごされている姿が見れて大変勉強になりました。

やっぱり、これから先は、学校の統合なんていうことがもう本当にリアルな世界になっていくというところで、刺激というか勉強になりました。

次に見た見守りのほうは、私、超監視社会みたいなものがちょっと嫌いなんで、街中にカメラがついてというよりは、人の倫理観とかが高まって、そういったところで皆さんが気持ちよく過ごしていけるような社会の構築が望ましいと思ってはいるんですが、現実問題、対処療法的なところでは、そういったカメラをつけてっていうのもしょうがないのかななんて思いつつ、複雑な気持ちでお話を聞いていました。

最後は、こども館でしたっけ。なかなか秦野なんかだと駅前にああいう施設もまずないですし、何かイメージしづらい建物だったんですけど、実際、ああいう屋内のちょっと広々したところで、自分も遊具というか、遊ぶっていう体感させていただいた感じだと、やっぱり子供なんか本当に喜んで、その姿も親御さんなんかも喜んでっていうのがすごく実感できました。

○福森真司委員長 小菅基司委員。

○小菅基司委員 義務教育学校は、本当にいい勉強させてもらったなというふうに思います。中1ギャップを解消するために、6年、3年の区分を4年、3年、2年の区分にしている、まず小学5年生ぐらいからできることを先に始めているという、制服にしたり、教科別の先生にしたりということで、秦野が今まだ区分案を3年、3年、3年にしているんで、その辺も意見を言えるところかなというふうに思いました。

やっぱり秦野は、幼少中一体の土地の中にある学校が数多くあるんで、まずは、できる学校からやってみるということが必要かなと思ったのと、ああいう学校の施設でのびのびと育てられれば、子供も通いがいいがあるんじゃないかなって思った。廊下も広いし、中庭もあって、通気性もよくてっていうところで、大いに参考にしていけばいいかなというふうに思いました。

見守りのほうは、話がやっぱりカメラのほうに多くいってしまっていて、これは時代の流れで平成15年のときになんか、まだ、街にカメラは少なくなったんだけど、今は犯人逮捕すると、絶対その犯人がカメラでどこかしらで撮られているっていうような世の中がもう当たり前になっちゃってるんで、秦野も防犯という意味でカメラを増やしていく必要があるのかなと。

なぜ、GPS機能を使っていないのかっていうのはちょっと分からなかったんで、秦野でやるとしたら、GPSを持たせたほうがスムーズだなというふうに感じました。

最後の子供の施設ですけど、当然ああいう施設を今後作っていかなければいけないなと。たしか、山口県下関市も同じような取組で、そこは、ふくふくこども館と言ったかな。屋上も広場になってたりして、昨日見たああいう施設があって、図書館併設で、小・中学生、高校生の学生たちが勉強するスペースなんかもあったりして、本当に駅前

がにぎやかになっている。そういったことも、やっぱりみんなで政策提言に向けて、いい話になるんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○福森真司委員長 続いて、横溝委員お願いします。

横溝泰世委員。

○横溝泰世委員 1日目の関係については、ステージの在り方がちょっと私にも十分に理解しきれていないところがあって、そのステージでよいのかどうか、今後検討課題になるんだろうなと思ってます。秦野も先ほどお話があったように、同じような状況を作ってるんですけども、やはり人格形成を含めた中における子供たちを見極める中で、そのパーセンテージなどを踏まえながら、さらに議論してもいいのかなと思ったりしています。結論は別にしても。そんなところがちょっといろいろ気になったところです。

見守りのことは、地域でコミュニティーに参加している中で、隣近所の人たち、両隣というものがあり、昔ながらのそういった環境づくりがどうやってやったら、今の秦野の中でできるかなと。その中で見守りというものは、孤立支援、孤独死の問題も含めて対応できて、民生委員児童委員協議会の人たちっていうのはやっぱり何百人に1人ですから、なかなか難しさがあると。もう一つ感じたことは、自治会の、国の問題が、もう少し充足させていくことができれば、また違ってくるのかなと。

あと、こども館は、秦野市で公共施設再配置計画の中で新しくその施設を、というよりも、今の公民館を中心とした中で、ああいった環境づくりをどうやったらできるのかっていうところも今後の課題になるかなというふうに思っているのが現状です。

○福森真司委員長 川口薫委員。

○川口薫委員 義務教育学校って素晴らしいなと思って、建設にかかる資金繰りなんかも、特別、積立ってというような感じじゃなかったの、そういう意味では、ある意味トップの思い切りが必要なのかなっていう。内容的には、9年生までの形を作っているということからすると、区切り、区切りでは一つのギャップがあるかもしれないけども、面白い試みで、秦野なんかも幼少中と一つにまとまっているようなところもあるので、モデル校的にもやってみる可能性があるんじゃないかなと。

見守りのほうは、やっぱりシステムがちょっと違うよなと思った。秦野市は、防災無線をうまく使っているよなところを聞かれて、そういうところでは、それと合わせながら、さっきGPSという話もあったけど、そういうものも使いながらのシステムの作り方っていうのも必要なのかなっていう感じがしました。

あと、こども館のほうは、昨日のところだけじゃなくて、いろんな所を見ると駅前っていうのは一つのキーワードっていうか、ポイントなのかなと思うんで、そういうところで施設を作って、にぎわい創造もそこから生まれるんじゃないかなという気がするんで、非常に面白い政策だなというふうに感じました。

○福森真司委員長 桑原昌之委員。

○桑原昌之委員 よろしくお願ひします。3つ見てきたわけですが、全てにおいて、本当に全世代の皆さんがやっぱり幸せに豊かに暮らせるようなことを考えていかなきゃいけないんだなと感じました。

別々のように見えて、結構全部絡んでいるなっていうところを感じまして、義務教育学校にしても、当然その社会体育の分野のところとか、その隣に図書館があったりとか、いろんな人が一斉に集まっていろいろできるような場所に持ってくると。3校作っていく中で、1校目が東条で、この後社町と、もう1校は上のほうの北部のところも同じように、地域の交流拠点としての複合的な機能を持たせた上での義務教育学校であったり、小中一貫校を作っていくということが非常に重要だなと思って、将来的には、例えば、そういうところに郵便局がなくなっちゃったら、簡易郵便局をつけるとか、それから医療の相談ができる場所があったりとか、いろいろなところが考えられるんじゃないかなというふうに思っていました。

同時に、高齢者の見守りサービスについてもそうですが、地域の人たちが一体になって、お互い顔の見える関係性を作るっていう上で、もちろんカメラもいいけれども、そういうところで学校の中で全世代が絡んでいると、例えば、どここのお年寄りが行方不明になっても、お互い興味・関心を持てば、極端に言えば、中村委員が言ったみたいにカメラはいらないねみたいな。自分たちがカメラになっていろいろできるということも考えられるだろうなというふうに思っていました。

当然、医療従事者の皆さんとの連携とかも取れて、小・中学生にも関わってくる部分ですから、一緒にやれたらいいかなと思っています。

子供向けの施設については、本当に私も全国各地あちこち見させてもらってますけど、複合機能を持たせたところっていうのが当たり前のようになってきていて、商業施設がだんだん店舗がなくなってきたところに入るというのももちろんそうでしょうし、これからの少子高齢化に当たっては、公民館に空きスペースができてくるとか、それから、学校の校舎の中にああいうスペースがあって、ちょっと下の世代の子たちが来るっていうことで園小の一貫とか、そういういろんなことができるとか、担当各課で頑張るんじゃなくて、どうやったら混ぜられるかみたいなことは1つポイントになるのかなと思って、3つつなげて考えてきました。

いろいろありがとうございました。

○福森真司委員長 間地薫委員。

○間地薫委員 3日間ありがとうございました。今回の視察先の3市ともに共通していたことは、子供たちの生活する上での環境とか、居場所づくりがしっかりと作られているなと感じました。

兵庫県加東市の施設一体型義務教育学校は、加東市の全部を見たわけではないんです

けども、市内を通過したときにでも、どの建物よりも立派で大きくて、広くて、本当に感動いたしました。子供たちが挨拶をしてくれましたけども、本当に笑顔が素敵で、のびのびと学校生活を送られているんだなということを感じました。来春も開校される予定があるとお聞きしまして、バスで通過したときに、もっと大きな立派な建物が見えましたが、保護者の視点からも、ここで子供を育てたいなと思いました。

2日目の兵庫県加古川市の見守りにつきましては、小菅委員も言われましたけども、GPSのほうがすぐに見つかるのではと思いました。

3日目の静岡県島田市なんですが、ぜひ、石川委員も言われていましたけど、本市でも雨のときに行ける場所というものを常設で欲しいなというふうに感じました。

以上です。ありがとうございました。

○福森真司委員長 私ですが、本当に皆様おっしゃるとおりでございまして、兵庫県加東市の義務教育学校につきましては、9年の中で4年、3年、2年のステージ分けもしっかりとされている中で、子供たちが生き生きとしているなということを感じたところと、やっぱり上級生を見習って、上級生のようにになりたい。パンフレットにありましたけども、上級生が新1年生の手を引いて入学式を迎える姿というのは、やっぱり教育の原点なのかなとか思いながらも、本当に小菅委員もおっしゃいましたが、ハード面っていうのは、お金もかかるところで難しいんですけども、本市においては、地域的に恵まれている学校もございまして。ですから、そういったところを、1つのモデル校としてやっていくのも1つなんではないかなというところもあります。

ただ、加東市議会の議長がおっしゃっていましたが、議員の皆さんが決めることでありますよと言いつつも、そういう話が首長から出なかったら、議案審議もできませんよねということも議長がおっしゃっていましたので、そういったトップの考え方1つで変わってくるのかなと思うところもありました。

それと、もう1つは合併になっておりますので、地域の皆様にしっかりと丁寧な説明をしないと、おそらく、なんで屋上にプールをつくるんだとか、そういったところの理解を得られないとできないところもありますので、そういったところのケアも必要なんではないかと非常に感じたところでございます。

見守りサービスにつきましては、1,200台を超えるカメラが常設されているところでございますけども、やはりお年寄りもそうですが、新小学生につきましては全員無料でつけられる。ですから、そういったところでは非常に安心感があるのかなというところを感じたところもありますが、ただ時代背景もありまして、来年にはシステムの値上げを要望されてきているところもあるので、予算のつけ方も非常に難しくなるのではないかなというところはありますが、参考にしたいというふうに思います。

静岡県島田市につきましては、こども館ですが、本当に素晴らしい施設で、駅前のにぎわいがあるのではないかな、できるかなというふうに思うんですが、ちょっと資料を

見させていただきましたら、平成24年には十二、三万人の来場者があったんですが、令和5年には8万人と、新型コロナの影響があって少し落ちたと思うんですが、やっぱり近隣で今までなかった施設が出来始めてきて、結構競争相手ができるということは、指定管理者として非常にその危機感を感じられているところで、そういうところがあると指定管理制度であるとなかなか難しいと思うんですね。

あともう1つは、指定管理ですとか民間と行政との連携というのは、なかなか難しいというのは、実は本音で、館長もおっしゃっておいりました。館長はたまたま行政出身の方で、担当課の方とは非常にうまくできているけど、私が辞めた後、どうしよう。担当課も変わってしまうので、いろんな要望をお願いしても受け入れてもらえない。だから、自分たちでやるしかないんですというようなところも実は問題であったり、その後、やったはいいんだけど継続していく難しさっていうのは実感されているみたいでした。そういったところも含めて私が感じてきたところでございますので、また所感に書かせていただきたいと思います。

皆さんありがとうございました。

それでは、今、皆さんからいただきました御意見につきましては、提言にも反映させていきたいというふうに思いますので、5月末までに、所感を提出いただけたらと思います。

次に、イ、今後の協議の進め方についてでございますが、前回の協議の場で、参考資料としてお示しさせていただいたと思います。再度御確認をいただきたいというふうに思います。2ページ目から出ておりますが、資料1につきまして、議会局から説明をお願いします。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、資料1について御説明させていただきますので、皆様、資料1を御覧ください。

資料1は、政策提言のスケジュール案となります。

まず、1段目の常任委員会の欄を御覧ください。委員会の開催は、こちらに記載しているとおり、原則、議会月を除いて毎月開催し、政策提言に向けて御協議していただく形となります。

次に、2段目の所管事務調査につきましては、昨日までの3日間で実施させていただきました。

次に、3段目の議会報告会につきましては、今後、調査・研究を進めていくに当たりまして、必要に応じて、関係団体との意見交換を実施することができます。以前にもお伝えしたと思いますが、令和4年のときに文教福祉常任委員会の政策提言に関して、意見交換を行った相手先は、ぼけっと21の利用者でした。

こちらの予定としては、もし意見交換を行う場合は、7月から9月までの間に、意見

交換先の選定と調整を行い、11月中には、意見交換を行っていただくと、その後の素案作成等に反映できるのではないかと考えております。

次に、4段目の調査研究につきましても、議会報告会と同様、必要に応じてアドバイザーの活用をしていただくことができます。

最後に、5段目の議会全員協議会につきましては、各常任委員会で提言書が作成できましたら、議会全員協議会の場において、各常任委員会の正・副委員長から提言内容について発表いただき、全議員で確認後、市長へ政策提言をさせていただく形になります。

今後の協議の進め方については、このようなスケジュール案を考えております。

以上です。

○福森真司委員長　ありがとうございます。

今、書記から御説明いただきましたが、アドバイザーの活用等についてでございますけれども、今後の協議をしていくに当たりまして、今回は、政策提言の具体的な項目について、できたら皆様からも御意見をいただければと思います。

つきましては、まず、資料2について、議会局から説明をお願いします。

議会局書記。

○議会局書記　それでは、資料2について御説明させていただきます。

こちらの資料は、2月16日の常任委員会の際にもお示しさせていただいたものとなりますが、皆様から政策提言テーマの案をいただき、正・副委員長で調整した結果、テーマとしては、上段の「安心して子育てできる環境づくりに向けて」、具体的には下段にあります「多世代交流の拠点づくり」や「子育てしながら働ける環境づくり」について調査・研究できればよいのではというお話になりました。

しかし、その協議の際にも、今後、具体的な内容は変更となるかもしれないという御意見もありましたので、再度、皆様で御協議いただきたいと思います。

以上です。

○福森真司委員長　ありがとうございます。

御説明のとおりでございますが、前回2月に示した資料の具体的な項目について、所管事務調査を終えた段階でございます。そこで、皆様に、所管事務調査を終えた中で、御意見がある場合、また現時点で何かあればお申出いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。これ追加してほしいと思うもの、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかとか。

昨日の今日でございますので、なかなか難しいところもあり、今、急ですので、もう少し待つということだと思いますので、5月末にいかがでしょうか。議会局のほうにお申出いただければ、それで改めて調整させていただきまして、6月の議案審査とかを行う常任委員会終了後に、政策提言の常任委員会を開かせていただければと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○福森真司委員長 一応、5月末ぐらいまでに、併せてよろしくお願いします。

桑原委員。

○桑原昌之委員 ちょっと気になっている。2つの項目が挙げられているんですけど、多世代交流の拠点づくりってかなり幅広い感じで、もちろん大いに賛成の内容ですけど、子育てしながら働ける環境づくりって言ったときに、どうしても一般的なイメージとしては、未就学児とかっていうのがかなりあって、学校教育とか、小・中学生の年代のことも項目が入ってきて、3本立てにするといいのかなとちょっと思っていて、義務教育学校とかも見てきて、今後のことを考えたら、どういうふうにやっていくか、もう1個あってもいいのかなと思っています。

学校教育、いわゆる小・中学生のことが書かれている内容のものがあるといいのかなって思います。

○福森真司委員長 そうですね。できたら御提案いただいて。

桑原委員。

○桑原昌之委員 文言は考えてきたいと思います。

○福森真司委員長 やはり、安心して産んで育てていただけるまでの切れ目のない支援というところにつながってますね。

桑原委員。

○桑原昌之委員 多分、順番も結構重要になってくると思うんですよね。

○福森真司委員長 そうですね。ありがとうございます。

それでは、次に、3、その他ですが、皆様から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○福森真司委員長 議会局から何かあればお願いします。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、政策提言に関する次回の常任委員会の開催につきまして御連絡させていただきます。

ただいま、皆様の御協議の中で、5月末までに具体的な項目について、御意見を御提出いただきまして、6月の議案審査を行う常任委員会終了後というお話がございましたので、次回は6月13日・木曜日に、議案審査や補正予算審査を行う常任委員会がございますので、そちらの終了後に、政策提言の関係で、一度常任委員会を開催予定したいと思います。

以上です。

○福森真司委員長 それでは、政策提言に関する次回の委員会の開催につきまして、御連絡させていただきましたので、以上を持ちまして文教福祉常任委員会を閉会とさせていただきます。

午前 1 1 時 3 4 分 閉会